#291

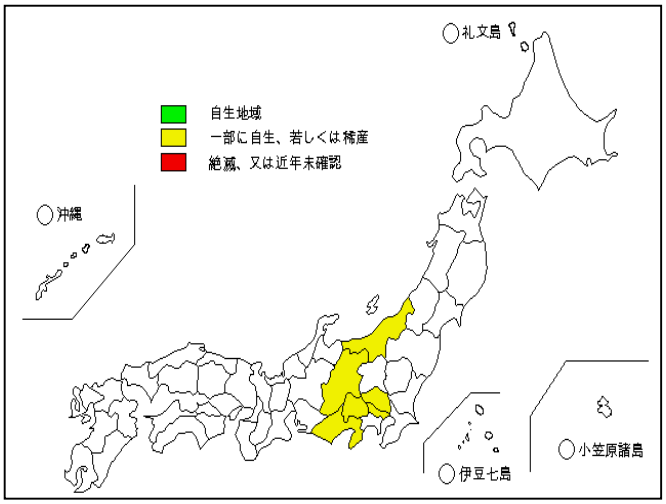
ホテイラン

絶滅危惧ⅠA類(CR)

Calypso bulbosa

ホテイラン(長野県　10.5/29)

本州中部の亜高山帯針葉樹林下に稀産する小型の蘭です。草丈の割に非常に大きく美しい桃色の花と、苔むした樹林下に自生する姿から「森の妖精」とも称される、大変美しい蘭です。
沢沿いの冷涼な高地に自生し、5～6月に船形をした桃色の大きな花を咲かせます。葉はしわの入った3cmほどの1枚葉を展開しますが、初夏に地上部は枯れ一時的な休眠期間に入り、秋口から翌年の葉を展開し、冬期は深い雪の下で越冬します。草姿は低山性で地味な蘭のヒトツボクロに酷似しています。
　生育環境が極めて限られ、自生個体数も少ないこと、またあまりの美しさの為盗掘被害、カメラマンによる自生地の踏み荒らし、さらには増えすぎた野生ジカによる食害等で絶滅寸前まで追い込まれています。そんな中でもいくつかの自生地は保護活動の対象となり厳重に個体管理、調査が行われている為、これを気にいつまでも自生地で咲き誇る姿を見られることを切に願います。



本州中部の亜高山帯に稀産します。

ホテイラン(長野県　10.5/29)

自生地域は中部地方の中央アルプス亜高山帯、及びその周辺のさらに極一部に限られる為、保護公開されている自生地以外で本種に出会える確立は限りなく0に近いです。
　あと当然のことですが、低地で栽培(個体維持もですが増殖を望める環境を「栽培」とします)は極めて困難なので、絶対に自生地から盗掘することはおやめ下さい。
　現在専門の環境保護機関によって栽培、増殖方法の確立を含む自生地保護活動に取り組まれております。個人単位での栽培、増殖はたとえそれが成功したとしても、盗掘、及び盗掘品購入の上に成り立つ単なるエゴに過ぎませんので専門機関に任せましょう。もしくは栽培について自信があり、ご自分の知識が自生環境保護に役立つとお思いの方は、是非正面から専門機関(市町村等)の活動にご協力下さい。

Document and photo by LittleFlower 2010

入手は不可能です。ゆえにここでは栽培も不可能とさせて頂きます。いつか高山性野生蘭の低地栽培、及び増殖方法が確立され、実生増殖による市場への大量供給がされるようになれば、非常に魅力的な蘭なので絶対に商用的価値もあり各生産業者もこぞって参加するはずですので、それまでは何卒個人での栽培はお控え下さい。（現状では商用生産は成功していないため、本種を購入するのも盗掘と同罪です）

株繁殖はしないため、自生下での増殖は実生に頼っているようです。（子株の存在も少ないことから発芽、定着率は悪いようです）

ホテイラン（長野県　10.5/29）

ホテイラン（長野県　10.5/29）

近縁種には青森県、北海道に一部に稀産するヒメホテイランがあります。姿形はホテイランとほぼ同じですが、ヒメホテイランのほうが逆にやや大型で、一番の特徴はホテイランはリップの下まで2又に分かれた距が突き出ているのに対し、ヒメホテイランはリップの裏に隠れています。

これらの美しい貴重な蘭の話をするときには、どうしても盗掘の話になってしまい説教臭くて申し訳ございませんが、どうか花を愛する皆さま一人ひとりが単なる自己満足ではなく、どうすればこの先いつまでも自生地で気高く咲き誇る野生蘭を見ることができるか考え行動して頂きたいです。

ホテイランの葉（長野県　10.5/29）

ホテイランのバルブ（長野県　10.5/29）